

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992500102		
法人名	社会福祉法人 ふるさと自然村		
事業所名	グループホーム いこい		
所在地	高知県高岡郡中土佐町久礼5988番地		
自己評価作成日	令和3年7月7日	評価結果 市町村受理日	令和3年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ができることはしてもらい、できないこともすぐに手伝うのではなく、本人ができるような形にし、やりたいことを職員と一緒に考え、外出や活動、日常的な仕事ができるよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Jigvosvg
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和3年8月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田園地帯に位置し、同じ敷地内に同一法人運営の養護老人ホームがあって、互いに連携して、職員研修や避難訓練を行っている。
入所1年未満の利用者が6名おり、事業所生活に慣れるよう、特に安全面を重視してケアに取り組んでいる。
主役は利用者として位置づけ、決して無理強いをさせず、本人が嫌なことはさせないよう、その日の体調を確認しながら、職員全員が利用者とのコミュニケーションを取ることを心がけている。
利用者の誕生日には好きな物をメニューに取り入れ、みんなで一緒にケーキでお祝いしている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の利用者が安心して過ごせるよう、理念に基づいた個別ケアを行っている。	「安心、安全、安楽の我が家」という開設当初からの理念にもとづき、職員は、利用者に無理強いさせない、嫌な事をさせないなど、日々穏やかに過ごせるよう、見守りながらケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田役、地域の清掃活動に参加する一方、防災訓練時には地域住民参加してもらっている。また、芋の苗植え、芋掘り等、行事ごとに近隣の保育園、小学校に声かけし、ボランティアと一緒に参加してもらっている。	地域の田役や海岸清掃には職員が参加し、敷地内の畑では、保育園児や地域のライオンズクラブのメンバーと利用者が一緒に芋の植え付けや、芋ほりを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活動としては取り組んでいないが、入所相談の来訪者に自宅での認知症高齢者支援の方法などをアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月に開催し、サービスの実施報告、取組み状況等を報告して意見、助言を得ている。	コロナ禍で、短時間での開催で状況報告をしてきている。町担当者、家族代表、民生委員でもある第三者委員が参加し、議事録は家族に送付している。今後、コロナ禍が落ち着いた時点で、新たに入所した6名の利用者の家族にも参加の声かけをすることとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者には運営推進会議で事業所の状況を説明し、意見を聞いてケアに活かしている。処遇困難ケースでは、町と協力して取り組んだこともある。	町担当者からは、運営推進会議等の機会に助言を得ている。ケアの実施上の困りごとについても、必要に応じて相談し、協力が得られる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度身体拘束適正化委員会を開催し、どのような行為が身体拘束、不適切なケアにあたるか検討して、職員研修に活かしている。	3ヶ月に一度の身体拘束適正化委員会で適正なケアとは何かなどのテーマを決め、職員同士話し合っているほか、研修を通じて職員に身体拘束をしないケアを徹底している。家族の同意を得て、4名の利用者がベットの側にセンサーを取り付けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会開催時に虐待についても話し合っている。研修は年2回行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用者1名が利用している。職員に対しては、それぞれの事業、制度の説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者、家族に説明しているほか、利用開始後も質問があればその都度説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に第三者委員等の相談機関を説明し、事業所の見やすい場所に提示するとともに、連絡先は事業所便りに載せている。家族から具体的な要望等があったら、職員間で情報を共有して対応している。	毎月送付する事業所便りに第三者委員の連絡先を記載し、事業所に言いにくい意見や苦情の相談ができるようにしている。家族からは、個々の利用者のサービスに関する要望が多く、食が細いので補助食を工夫してほしいといった要望を受け、その都度検討して対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間事業計画策定時に職員の意見を聞き、その年の運営に反映させている。	職員は管理者に日頃から何でも話せる環境にあり、信頼関係が築かれている。管理者は、毎月の勤務表作成時に職員の希望をよく聞き、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の適正を見極め、業務の役割分担を決めて、職員のチーム力が活かせるような体制づくりを心がけている。また、家庭の事情などに合わせて勤務シフトを決めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、母体法人内での介護技術研修、事業所内研修のほか、高知県社会福祉協議会や行政が主催する研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の事業所の管理者が集まり、運営の仕方などについて話し合いをする機会があり、今年から現場の職員も参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	世間話をしながら、本人の要望などを聞き取り、サービスにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から見た本人の問題点を聞き、本人、家族にとって調和のとれたサービスを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時から家族、利用者の意見を聞き、介護保険やそれ以外の制度から利用できるサービスを説明し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者が共に生活していることを意識して、掃除、洗濯、草引きなどを一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者との関係が絶たれないよう、日ごろから相談や報告をし、散髪や病院受診、法要など、可能な対応は家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会を控えてもらっている状況だが、本人が気になり面会に来た家族には、感染対策を施したうえで面会できるようにしている。	コロナ禍で家族の面会は控えてもらっているが、拒絶はしていない。外出もできず、買い物も職員が代行し、家族にも持参してもらっている。希望があれば、住んでいた地域にドライブに出かけて、馴染みの関係の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの好みを聞き、草引きやレクリエーション等の活動を通じて、お互いのコミュニケーションが取れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してからも気軽に相談に来てもらえるよう、家族に声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には本人、家族の意向を確認し、可能な範囲で希望、意向に沿った対応ができるようケアプランに活かしている。	日々の会話や行動の中から、本人本位の思いや意向を把握するように努めている。職員はタブレットに把握の状況をその都度入力して情報共有されているが、思いや意向が一目で分かる記録の工夫はされていない。	新たに把握した利用者の趣味や好みなどが一目で分かるよう、利用者個々の追加記録を作り、一人ひとりの意向に沿ったサービスに活かすことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用して、本人から話を聞いたり、家族や以前担当していたケアマネジャーに話を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活スタイルを把握し、画一的なサービスにならないように取り組んでいる。利用者の言動から身体機能、精神面の理解、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを第一にケアプランを作成し、面会時などに家族の意見も聞いて反映させている。また、職員の意見もミーティングで聞き、反映できるように努めている。	本人、家族の意向を聞き、ケアプランの原案を作成し、1ヶ月後職員全員でカンファレンスを行い、プランを作成した後、3ヶ月毎にモニタリングし、入院等による状況変化時には、その都度見直している。通常は6ヶ月毎、安定して変化のない利用者は12ヶ月毎の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者別の生活記録を記録し、職員間で情報共有して、介護計画の見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに合わせて、柔軟な対応ができるようにしている。町担当者にも意見を聞いて、運営に反映させている。遠方の家族に代わって通院介助などを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生、保育園児などとの交流を持ち、併設施設での行事にも参加している。運営推進会議では、利用できる地域資源についての話し合いも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人、家族が希望する病院を受診してもらっている。家族を通じて病院との情報交換を行い、認知症の専門医にかかる際には、職員も同行している。	1名が入所前からのかかりつけ医を継続受診しているほか、その他の利用者は協力医をかかりつけ医として、月2回の往診を受けている。専門医の受診には、家族が付き添っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する事業所の看護師と連携をとり、互いに相談しながら利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院と連絡を取り合い、情報交換を行うほか、お互いに相談し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針をもとに、家族、本人に事業所でできること、できないことの説明を行う一方、協力病院と連携できる体制を整えている。	入所時には、看取りに関する指針について本人、家族に説明している。重度化の際には家族、医師、看護師、管理者を交えて方針を検討し、対応している。これまで看取りの実績はないが、職員研修も検討し、協力医との看取りの連携体制を整えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内外の研修に参加し、職員は緊急時に対応できるようにしている。また、緊急時のマニュアルをすぐ見える所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、地震津波避難訓練を年2回ずつ、風水害避難訓練を年1回行っている。併設の養護老人ホームが災害時の避難所になっており、訓練は合同で行っている。非常食の多くは、養護老人ホームの方で保管している。	併設施設と合同で地震津波避難訓練を年2回、風水害訓練を年1回行っている。火災訓練は年2回、うち1回は消防署の立会を受け、もう1回は、夜間を想定した訓練を独自に行っている。非常用食料の備蓄は、養護老人ホームに3日分が確保されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が自信をなくすような声掛け、対応はせず、一人ひとりの人権を尊重した対応を心がけている。	職員間で利用者の話をするときには、周りに聞こえないよう声のトーンを落とし、利用者には分からないようにしている。職員には、個人情報への守秘義務も徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でも、最終的な決定は利用者の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースや生活リズムを尊重し、職員のペースではなく、一人ひとりの希望に沿って生活できるような体制が整いつつあり、現段階では好きな時間に起きて、好きな時間に寝ることができている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は、本人の希望で好きなものを選んで着ている。また、行つけの理容室を利用する利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に手伝ってもらいながら、調理や片づけを行い、利用者の希望を聞きながらメニューを作っている。	食材は事前に注文しており、近くのスーパーから毎日届けられている。利用者が好きな刺身などをメニューに取り入れている。テーブル拭きや皮むきなど、利用者ができることは手伝ってもらい、職員は、利用者を見守りながら一緒に食事を取っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し、管理している。食事の状態も、利用者個々に合わせて食べやすい形態にし、食べる量を見極めて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを実施している。現在は、利用者全員が自分で歯磨きができるので、職員が声掛けをして行っている。義歯を洗浄液につけることは、職員が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべく失敗しないようにトイレ誘導を行っている。現状では、自発的にトイレに行く利用者が多い。	排泄自立している利用者が多く、布パンツ5名、紙パンツにパットの使用者が4名で、おむつ使用者はいない。職員は一人ひとりの排泄パターンを把握しており、食事前や利用者の様子から、耳元で声掛けして、トイレ誘導している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維の多い食材を取り入れたり、運動を促進することで便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間がある程度決めてはいるが、本人のその日の気分に合わせて入浴できるよう、臨機応変に対応している。	本人の希望に合わせて、週2回又は3回の入浴になっている。午前、午後と本人の希望に沿って声掛けし、「今日はやめる」と意思表示があれば、無理強いせず翌日に入浴を促すようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった時間に起こしたり、就寝させたりするような対応は行っておらず、本人の好きな時に起きて、好きな時に眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局で出される内服薬に関する書類をファイルに綴じている。また、主治医、看護師から内服薬について話を聞いたり、書籍を利用したりして、職員は内服薬の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草引きや食器洗い、簡単な調理など、本人のできること、やりたいことを共同で行っている。自分の好きな花や野菜の苗を買ってきて、職員と一緒に植えたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で敷地外への外出は、ほとんどできておらず、敷地内での散歩、外気浴を行っている。職員では対応できない外出の要望には、家族に対応してもらっている。	コロナ禍で外出支援は大幅に制限されているが、3月には花見を利用者8名でドライブに出かけている。天気の良い日には、午前中2名ずつのペアで敷地内の散歩をしている。雨天時等で散歩ができない日は、15～20分の体操で体を動かすようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金を利用し、利用者がいつでも現金を利用できるようにしている。また、自己管理できる利用者は、自分で現金を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をしたり、手紙を出したりできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に合わせて室温や照明をコントロールしており、テーブル、ソファの配置も利用者の意見を聞いて行っている。	広々とした明るいフロアーには、3台のテーブルと寛げるソファが置かれ、ドラマが好きな利用者がゆったりとテレビを見ていた。ヒットした昭和歌謡曲の数々が流れるのを聞きながら、利用者は自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファ、テーブルを置き、利用者が思い思いの場所に座ってコミュニケーションを取っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、本人が過ごしやすいように使い慣れたものを持って来たり、新しく購入したりして。	衣類はクローゼットに収納され、居室は綺麗に掃除が行き届いている。備え付けのベッドや広洗面台のほかに、使い慣れたタンスやソファなどが持ち込まれ、その人らしい、過ごしやすい居室となっている。孫からもらった写真付きの手紙を飾ったりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは分かりやすいよう、大きく便所と書いている。ホールからトイレまでたどり着けるよう、貼り紙をしている。		

ユニット名：

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない